



くすの木

春日部市立医療センターだより

発行
春日部市立医療センター
有馬 健
発行日
令和7年3月1日
編集
広報委員会
第119号



前立腺センター長就任のご挨拶

前立腺センター長
蜂 矢 隆 彦



読者の皆様こんにちは。満を持して春日部市立医療センターに前立腺センターが誕生しました。前立腺センターは前立腺がんで受診した患者さんの正確な診断と多職種による多種多彩かつ適切な治療を円滑に実現する高度診断治療推進組織として誕生しました。

令和6年度に発足しこれまで試験的に機能はしておりますが多職種が連携し十分以上の機能を発揮しはじめするには令和7年まで待たなければなりません。がもはや目前となりました。

前立腺センター誕生の背景を概説いたします。春日部市行政に地域医療における前立腺癌診療に対する深い理解があることから当センターでは地方自治体病院として極めて高度な前立腺癌治療の実現に成功してきました。当院の全身である春日部市立病院でも前立腺癌腫瘍マーカー PSA 高値の患者さんを積極的に受け入れ、がん早期発見に努めました。前立腺癌と診断された患者さんに低侵

襲の小切開前立腺全摘除術や三次元原体照射を行うなど根治的治療を行うかたわら、進行がん患者の集学的治療から緩和医療まで幅広く取り組んだ歴史があります。開腹手術の時代ですら年間50例を超える前立腺全摘に三次元原体照射に必需してまいりましたが、この件数は地方の大学病院にも匹敵するものでした。

2016年に現在の医療センターに移り、2017年からは手術支援ロボット da Vinci を使用して高度な前立腺癌手術を行えるようになりました。ロ



ボット手術免許保持者のみならず指導者も輩出し、手術の質も高度になりました。従来の三次元原体照射の他に IMRT が満を持して施行可能になりました。IMRT は三次元原体照

射以上に多職種連携が必要な技術ですが、放射線科、看護部、栄養科、事務、泌尿器科の連携が幸い円滑で今後ますます増えていくと期待されることです。さらに進行がんではホルモン療法、化学療法に加え Ra223 も使用できるようになりました。このような治療は多職種の皆様の熱意にささえられたものでありました。しかし一方では、統合された体制の下ではなかったところに質の限界があったと言えます。

高齢化が進む我が国では、前立腺疾患が急増しつつあります。前立腺がんは早期に発見できれば完治が可能ですが、進行した場合は命に関わる病気です。治療に当たっては正確な早期診断と病態に応じた手術、放射線治療、薬物療法を駆使して病状に応じた適切な診療対応が求められます。

これらの複数の治療手段を適切に活用するためには泌尿器科だけでなく多職種の連携が欠かせません。地域医療に注力するがん診療連携拠点病院として急増する前立腺がん患者を各科個別に治療

するのみならず総合的に多職種で最善の治療を構築するため、前立腺がんの診療に特化した前立腺センターを立ち上げ、泌尿器科、放射線治療科、放射線診断科、病理診断科が連携し、受診申し込み後の診断から治療までの流れを円滑に行う体制を整備しました。

初代の前立腺センター長を拝命しこれまでの各科治療の枠を超えてこれまでにないきめこまかな前立腺癌治療に取り組む所存であります。



副院長就任について

このたび、令和6年4月1日に副院長を拝命いたしました。

皆様のご協力をいただき、地域医療に少しでもお役に立てればと考えています。

私は平成2年9月1日に市立病院時代の当院へ赴任しました。この頃は現在とは違い内科系は各

科が独立しておらず皆で知恵を出し合いながら診療をしていました。その頃の内科系医師の主な専門領域は循環器科、高血圧内分泌科、腎臓内科の先生方で、神経内科出身の自分が後から加わった状態でした。消化器内科、呼吸器内科、血液内科、糖尿病内科の先生方はまだ赴任されておらず、消

副院長
山岡健治



化管内視鏡検査や気管支鏡検査も皆で考え、教えながら行っていましたし、看護部、検査科、放射線科、リハビリテーション科とも連携して診療していました。またこの頃はまだ当院においては心臓血管カテーテル検査は行われていない状況でした。

高血圧内分泌科出身の先生は器用な方で、上部、下部内視鏡検査、大腸ポリペクトミー、ERCP、気管支鏡検査も上手でした。あるとき、近隣の病院の消化器内科から連絡もなく止血困難な上部消化管出血患者が送られてきたり、呼吸器内科からコントロールできない喘息重積発作患者さんを送られてきたことがありましたがそれぞれ止血をしたり発作をコントロールしたりしていました。

一般内科の経験が浅かった自分としては毎日が驚きで、良い経験を積ませて頂いたと感謝しています。この内科の時代に共に診療した仲間からは、元、前、現職をいれると、日大循環器科教授2名、日大病院検診部教授、金沢医大総合診療科教授、兵庫医大腎臓内科教授、埼玉県立大教授、明治薬科大教授、防衛医大総合診療科講師、心臓血管研究所附属病院長、取手中央病院長、敬愛病院長をはじめ、地域医療に貢献する多くの医師が巣立っています。

私は現在感染対策委員長も担当していますが、発端は内科医師が各委員会に分担して出席することになり、たまたま感染委員になったことでした。市立病院は感染症指定医療機関でしたが、当時は赤痢患者がたまに入院するくらいでした。

SARSの時に裏の駐車場に別小屋を建てて中国からの帰国者で発熱などのかぜ症状のある患者さんを診察することになりました。実際には日本国

内ではSARS患者は発生しなかったのですが、このときの経験が多少なりとも今回のCOVID-19に生かされたのではないかと考えています。COVID-19の当初の流行時には当然内科系医師だけでは対応できず、ほとんど全ての科の医師がいやな顔一つせずに応援をしてくださいました。また最前線で検体を取ったりバイタルを確認し、また一旦入院となれば長時間患者さんの居る部屋から出られずに献身的に看護する看護師の皆様、胸部レントゲン、CTを撮影してくださる放射線技師の皆様、感染症検査や血液検査をになう臨床検査技師の皆様、入院後に体力の落ちた患者さんにリハビリテーションを行ってくださったリハビリテーション科の皆様等の、一致協力が無ければこの5年間は乗り越えられなかったと思っています。

この協力は市立病院時代の診察時にはすでに行っていたことでしたが、皆で知恵を出し合い、協力し合う精神、またお互いに各部門を尊重し、感謝するという当院の伝統のたまものと考えています。

COVID-19はまだ市中に存在し完全に克服したわけではありません。まだまだ気を緩めることはできませんが今後も協力して乗り切っていきたいと思います。さらに今後は未知の感染症の発生あるいは過去のもと思われていた感染症が再興する可能性も高まっています。

今後さらに感染対策は院内外の協力が不可欠になると思います。

地域医療の手本となり、頼りにされる存在になるように皆様と共に頑張りたいと思います。

副院長就任について

副院長
藏 良 政



2024年4月から副院長（医療安全・パラメディカル担当）に就任しました藏 良政と申します。

私は、2005年6月に、20年勤務しました日本大学医学部血液膠原病内科を辞職して春日部市立病院へ入職しました。それまでに当院で月2回非常勤医として血液内科外来診療を行っておりまして、当地区に血液内科標榜施設がなくその影響か？血液内科診療の需要があるのは判っておりましたが、不安もいっぱいでは任じました。

2005年6月1日から私の上司澤田海彦先生と大学を同じ時期に退職した相川真吾先生と専門医3名で血液・化学療法科の診療が開始されました。

血液内科での化学療法の特殊性から多くの患者さんを扱う事はできなく、個々の患者さんに丁寧に接する事をまず第一に心の中心において診療を開始して今でもその魂は忘れていないつもりです。

春日部市立病院は当時がん診療連携拠点病院の指定を受けるべくそれぞれの分野で皆が頑張っているところでした。その結果、2007年1月には地域がん診療連携拠点病院の承認を頂きました。現在までに3回更新（2010年4月・2014年4月・2019年4月）ができ、2023年4月に4回目の申請を行ったところです。その際に日本医療機能評価機構の認定をうけるように御指示がありました。

病院機能評価 Version 5.0 の認定を2009年11月に受けたとはいえ約15年の月日が経過しておりまして各分野それぞれに課題が出現しておりました。日

本医療機能評価機構の認定を受けるのは、確かにとっても大変な作業でしたが、支えて下さった方々のお力添えもありまた各分野の皆の頑張りもあり2024年5月16日・17日受審の日を無事に迎える事ができました。それぞれの分野でそれぞれが頑張ってきた内容を発表し、サーベイヤーからの質問に適切に回答して二日間を終えた後の総評では皆とっても良い顔をしておりました。

指摘された項目は主に2点で改善点を含めて上申しておりまして、現在その最終判断をまっている段階です。Version 5の取得の時にも思いましたが、自分の置かれている立ち位置が変わった事もあり、より多くの職種のパラメディカルと共に一つの目標に向かって仕事をする喜びを感じました。今後日本医療機能評価機構の承認を頂きさらによい病院へと、多くの職種のパラメディカルと共に悩み、共に歩いて行きたい、その一員として出来る限りの事をして行きたいと思っております。

担当として頂きましたもう一つの仕事として、医療安全があります。

患者さんが訴えをもって病院を受診して、疾病の診断の為の検査・診断を経て治療を完了する経過の中で安全（安全に行え得る行え得た医療）は、常に意識しなければならない大切な事柄です。日本医療機能評価機構からは医療安全管理委員会は各委員の100%の出席をもって種々議論するべきと、頂いております。それだけ各職種で議論すべき事が大切との

事でもあります。インシデント・アクシデントレポートの件数（が少ない事を）を日本医療機能評価機構で指摘を頂きました、当初私は、疑問にさえ感じました。すくない事は良いことなのでは？違いました。どんなに些細な事でもその経験がその経験を元に皆で議論する事がアクシデントの発生を防ぎ、しいては医療事故を防いでくれているのです。現在当院では、古市知広医療安全委員会委員長・原美保医療安全管理者の元全ての部署におけるインシデント・アクシデントを毎月集計し報告をして、その内容を毎月皆で検討し議論しあう現場が設けられています。素晴らしい事だと思っております。（また医療安全院内巡視も毎月行っております。）また医療水準の維持も医療安全上大切な事柄です。

医療水準の維持に関しては、なかなかその評価（何を規準とするか等）が難しいと思いますが、前述のようにがん診療連携拠点病院の承認を頂き、おそ

らく更新も出来得ている施設として、名に恥じないような診療内容を実行・継続していくべきと考えます。その為には、各診療科での日常的な議論（カンサーボード等）を経て、個人の偏った意見によらない、診療科の総意として一般化された医療内容の実行・維持を常に心がけてがん診療連携拠点病院として今後も各科の連携の元、診療して行く事が必要です。そのための一人のスタッフとして残された期間を全うして逝きたいと思っております。残されて期間はそう長くはなく、次の世代が萎えないように、負の遺産の継承を極力減らして、次の世代が希望もって事にあたる事が出来る様に、出来続けるように、いままで以上に頑張っていきたいと思っております。御指導ご鞭撻の程宜しく願いいたします。

また春日部市立医療センターをこれからも宜しくお願いいたします。



第20回市民公開講座を開催しました

当院は埼玉県内 13 か所のみに指定されている地域がん診療連携拠点病院として、身近な病気の最新情報や健康を維持するための役立つ医療情報などを、専門の医師や看護師、医療従事者などが分かりやすく解説する「市民公開講座」を春日部市医師会共催開催しています。

今年度は、令和 6 年 11 月 30 日（土）に春日部市立医療センター 3 階多目的ホールにて、第 20 回市民公開講座「膝の軟骨がすり減っていますね」と言われたら～変形性膝関節症～を開催いたしました。

当日は当院の整形外科の医師をはじめ薬剤師、医学療法士がそれぞれの立場からお話をさせていただき、72 名の方にご参加いただきました。



厚生労働省より公衆衛生事業功労者表彰を受けました

令和6年度公衆衛生事業功労者個人の部において、矢崎 一郎放射線科長が厚生労働大臣表彰を受賞しました。

👑 功績内容

埼玉県診療放射線技師会第五支部の理事を長年務めた功績が高く評価されました。

👑 矢崎科長からのコメント

平成21年4月に埼玉県診療放射線技師会第五支部の理事になって、早いもので15年の月日がたっていました。たくさんのご迷惑をおかけしながら私なりに努めてきました。今回このような機会をいただき、理解を示していただいた春日部市立医療センターの皆様、支えてくださった方々に深謝いたします。



※公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰とは

多年にわたり公衆衛生事業のために献身的活動を続け、その功績が特に顕著であり、その事業に携わる者の模範となるものを表彰するものです。



編集後記



毎日が慌ただしく、このところ春日部市立医療センターも何かとにぎやかで、掲載したい記事が多くあり、内容が遅れ気味になってしまっていることをお詫び申し上げます。

これからも、ますます医療センターの職員の皆さんにも、患者様や市民の皆様にも、楽しんで頂きながらお役に立てる記事をたくさん集めて掲載していきたいと思っています。

令和7年3月

総務課 田中 ひろみ